

# れきはく NEWS

vol.51  
2021. FEB

島根県立古代出雲歴史博物館の  
旬な話題や情報をお届けします

Shimane Museum of Ancient Izumo

## CONTENTS

- 2 奈良県立橿原考古学研究所附属博物館藏品巡回特別展  
しきしまの大和へ「奈良 大発掘スペシャル」
- 4 展覧会通信
- 5 令和3年度展覧会のご紹介
- 6 れきはく通信
- 7 古代文化センター通信
- 8 祝14周年!開館記念先着プレゼント  
奈良県観光キャンペーン in 出雲



重要文化財 大型円筒埴輪  
メスリ山古墳  
奈良県立橿原考古学研究所附属博物館蔵



国宝 金銅製龍文飾金具  
藤ノ木古墳 文化庁蔵



土偶 親音寺木馬遺跡  
奈良県立橿原考古学研究所蔵

奈良県立橿原考古学研究所附属博物館藏品巡回特別展

しきしまの  
大和へ

# 奈良大発掘 スペシャル

令和3年3月19日(金)▶▶▶5月17日(月)

重要文化財 三角縁神獸鏡  
黒塚古墳 文化庁蔵



重要文化財 面文帯神獸鏡  
黒塚古墳 文化庁蔵

翡翠製合わせ勾玉  
澤ノ坊2号墳  
奈良県立橿原考古学研究所  
附属博物館蔵

椅子に座る男性埴輪 石見遺跡  
奈良県立橿原考古学研究所附属博物館蔵





**会期** 令和3年3月19日(金)～5月17日(月)

◎開館時間／9:00～18:00 ※最終入館は17:30となります

◎会期中の休館日／4月20日(火)

**会場** 島根県立古代出雲歴史博物館 特別展示室

**主催** 島根県立古代出雲歴史博物館・奈良県立橿原考古学研究所附属博物館

万葉集に「しきしまの」と枕詞を掛けられる大和。そこには、古代日本の中心地であったことを示す遺跡が数多くあります。この大和の考古学を80年以上にわたって牽引してきたのが奈良県立橿原考古学研究所です。この度の展覧会は、奈良県立橿原考古学研究所附属博物館が所蔵・保管している出土品の数々を東京・神奈川・福岡・島根の4都県で巡回展示するものです。さらに当館では、令和元年度に東京国立博物館で開催された特別展「出雲と大和」の成果をもとに、特別に国宝・重要文化財を含む貴重な資料を追加して展示します。

縄文時代から中世の優品を通じて、ユーラシア大陸や朝鮮半島からの外来文化が我が国のくにづくりにいかに関わり、大和どころが培われていったのか、紹介します。この機会に壮麗な“しきしまの大和”を感じていただきたいと思います。

【奈良県立橿原考古学研究所附属博物館蔵品巡回特別展】

しきしまの大和へ

# 奈良大発掘スペシャル



**圧巻！  
世界最大の  
埴輪**

4世紀の大型前方後円墳であるメスリ山古墳には、なんと高さ2.42mもある世界最大の埴輪が立てられていました。大王墓の権威を象徴する迫力満点の巨大埴輪をご覧くださいと思います。

【重要文化財】

大型円筒埴輪 メスリ山古墳  
(橿原考古学研究所附属博物館蔵)



## 歴史的大発見！ あの有名遺跡の出土品

奈良には、34面もの鏡が副葬された黒塚古墳、金ピカの馬具や煌びやかな装身具が豊富に出土した藤ノ木古墳、『古事記』を編纂した太安萬侶の墓など、歴史的な大発見となった有名な遺跡があります。これらの遺跡から出土した、めったに見ることのできない貴重な資料を展示します。



【国宝】金銅製龍文飾金具 藤ノ木古墳  
(文化庁蔵)



【重要文化財】  
太安萬侶墓誌  
(文化庁蔵)



【重要文化財】  
画文帯神獸鏡  
黒塚古墳  
(文化庁蔵)



椅子に座る男性埴輪  
石見遺跡  
(橿原考古学研究所  
附属博物館蔵)



## 不思議、華麗、ユーモラスな 出土品たち！

大きく口を開けた縄文時代の土偶、2つの勾玉を合わせたかたちをしているこの世にただ一つしかない勾玉、すました顔で椅子に座る人物埴輪、ユーモラスな表情の墨書人面土器など、いにしえの人々が暮らしや祭りなど様々な場面で用いた品々が皆様をお待ちしています。



翡翠製合わせ勾玉  
澤ノ坊2号墳  
(橿原考古学研究所  
附属博物館蔵)



土偶 観音寺本馬遺跡  
(橿原考古学研究所蔵)



墨書人面土器  
神田・若槻遺跡  
(橿原考古学研究所  
附属博物館蔵)

●新型コロナウイルス感染症の状況により、日程や内容等が変更になる場合があります。  
最新の情報は当館ホームページをご覧ください。

## 関連講座

### 第1回

- ①大和の古墳を掘る  
—黒塚古墳から高松塚古墳まで—
- ②ししまの大和へ展の見どころ

- 日時／3月20日(土) 10:00～12:00
- 講師／①岡林 孝作氏  
(橿原考古学研究所附属博物館 館長)
- ②小栗 明彦氏  
(橿原考古学研究所 指導研究員)

### 第2回

- 埴輪の成立と  
メスリ山古墳の大型円筒埴輪

- 日時／4月11日(日) 13:30～15:00
- 講師／東影 悠氏  
(橿原考古学研究所 主任研究員)

### 第3回

- 装身具から見た  
藤ノ木古墳の被葬者

- 日時／4月25日(日) 13:30～15:00
- 講師／ト部 行弘氏  
(橿原考古学研究所 資料課長)

〈会場〉  
古代出雲歴史博物館 講義室

各講座とも  
定員60名  
参加無料

講座に参加される際は、マスクの着用をお願いします。

関連講座に参加をご希望の方は、  
下記の方法でお申し込みください。

- お申し込み方法  
電話・FAX・ホームページのイベント参加フォームのいずれかで事前にお申し込みください。
- お申し込み先  
〒699-0701 鳥根県出雲市大社町杵築東99-4  
古代出雲歴史博物館  
TEL.0853-53-8600 FAX.0853-53-5350  
<https://www.izm.ed.jp>

【個人情報取り扱いについて】  
この申し込みによって収集した個人情報は、鳥根県の規定に従って取り扱い、関連イベント・講座開催の目的にのみ利用するほかは、法令に定めがある場合を除いて、第三者に提供することはありません。

特 別 展

# 子ども／おもちゃの博覧会

◎会期／令和3年7月2日(金)～8月22日(日)

■開館時間／9:00～18:00 ■会期中の休館日／7月27日(火)・8月17日(火)

◎会場／島根県立古代出雲歴史博物館 特別展示室

今年の夏の特別展は、国立民族学博物館で開催され好評を博した「子ども／おもちゃの博覧会」の巡回展示です。

国立民族学博物館は江戸時代から昭和にかけての玩具約5万点を集めた「多田コレクション（時代玩具コレクション）」を所蔵しています。今回の展示会はこのコレクションから厳選したおもちゃの数々が展示されます。

おもちゃは文明開化や教育制度の整備、商品経済の発展、戦争、敗戦からの復興などそのときどきの社会の動向と深く関わってきました。展示される数々のおもちゃは、当時の社会や子どもの姿を色濃く反映しています。今回の展示するおもちゃを通し、江戸時代から近現代にかけての激動の日本社会の歴史や、社会の変化に呼応し、変わり続けてきた子どものあり方に思いをはせていただきたいと考えています。

もちろん「難しい事は抜きにして、懐かしいおもちゃを見て楽しみたい」という



教育新版オリムピックカルタ 国立民族学博物館蔵

皆さんも大歓迎です。ちょうど夏休み時期に開催されますので、ご家族での観覧もオススメです。

新型コロナウイルスの影響でなかなか先が見通せない昨今ですが、無事に開催できることを祈りつつ準備を進めています。中国地方でもこれまでに例のない大規模なおもちゃ展となっております。ご期待ください。



文化人形、ズーマーロボット  
お猿のサンボ、人形(西洋人の少年)  
(国立民族学博物館蔵)

昨年は新型コロナウイルスの蔓延により生活様式が一変した年でした。古代出雲歴史博物館においても感染拡大防止のため令和2年5月31日まで休館しました。再開後は感染症対策を徹底し、安心して鑑賞できるように努めておりますので、ぜひご来館ください。

さて、令和3年の春季は、特別展「しきしまの大和へー奈良大発掘スペシャル」を開催します（会期：令和3年3月19日～5月17日）。奈良県立橿原考古学研究所附属博物館が所蔵する考古資料を巡回展示するもので、「しきしまの」とは、万葉集に見られる大和にかかる枕詞として知られています。この大和から、古代日本の中心地であったことを示す多くの優品がやってきます。昨年、東京国立博物館で開催した特別展「出雲と大和」から1年、この時公開された国宝や重要文化財の考古資料も展示されます。お見逃しなく。

夏季には、特別展「子ども／おもちゃの博覧会」を開催します（会期：7月2日～8月22日）。私たちは皆、おもちゃで遊ぶという経験を経て大人へと成長します。皆さんも欲しいおもちゃを親にねだったり、友人が持っているおもちゃをうらやんだりした経験があるかと思います。おもちゃは、その時々々の流行や社会現象を象徴する存在でもあります。展覧会では、江戸時代から現代までの様々なおもちゃを通して、子どもをめぐる世相と歴史を紹介します。

ご家族で楽しんでください。

秋季に開催するのが、企画展「COME on 山陰弥生ライフ 米作りはじめました」です（会期：9月17日～11月14日）。弥生時代と言えば、日本列島で米作りが始まった時代であるとは一般には知られていません。大陸から伝わった米作りですが、私たちが暮らす山陰地方は、日本列島の中でも早い段階にイネなどの大陸系穀物が入った地域です。また、穀物と同時に様々な文物が流入し、山陰の農耕社会を代表する青銅器や四隅突出型墳丘墓を有する地域となります。この展覧会では、山陰地方や周辺地域の縄文時代から弥生時代にかけての文物を取り上げながら、山陰の農耕社会が形成されていった姿に迫ります。

年が変わって3月には、企画展「古代山陰道展(仮)」を開催します（会期：令和4年3月18日～5月15日）。「山陰道」と聞くと、島根・鳥取両県内で整備が進められている高速道路「山陰道」を想起される人が多いと思います。道路は、物流・人の移動・都市の形成など、古代から身近な存在で重要な役割を果たしてきました。近年、発掘調査により古代山陰道をはじめとする道路遺構が相次いで発見されています。この展覧会では、古代山陰道や関係資料を通して、古代の交通路が果たした役割を紹介します。

それぞれの展覧会は、会期が近づきましたら本誌で詳しく紹介します。令和3年度もよろしくお願いたします。

## 2021年度 古代出雲歴史博物館 展覧会スケジュール

### ■奈良県立橿原考古学研究所附属博物館蔵品巡回特別展

#### しきしまの大和へ 奈良 大発掘スペシャル

2021年  
3月19日(金)～  
5月17日(月)  
※会期中の休館日／4月20日



国宝 藤ノ木古墳 金銅装飾文飾金具 文化庁蔵

### ■特別展

#### 子ども／おもちゃの博覧会

2021年  
7月2日(金)～  
8月22日(日)  
※会期中の休館日／7月27日



文化人形、スマートフォンロボットのサンボ、お猿のサンボ、人形、西洋人の少年 国立民族学博物館蔵

### ■企画展

#### COME on 山陰弥生ライフ 米作りはじめました

2021年  
9月17日(金)～  
11月14日(日)  
※会期中の休館日／9月21日・10月19日



稲の収穫

### ■企画展

#### 古代山陰道展(仮)

2022年  
3月18日(金)～  
5月15日(日)  
※会期中の休館日／4月19日



杉沢遺跡 写真提供…出雲市

## 新館蔵品紹介

## 「大念寺古墳発掘遺物図」

## 「今市大念寺洞中細見之図」

出雲市今市町に所在する大念寺古墳は、6世紀中頃（古墳時代後期）に築かれた出雲地方最大（全長92m）の前方後円墳です。古墳の主体部は全長12.8mの横穴式石室で、玄室には家型石棺が残されています。この家型石棺は長さ3.3m、高さ1.7mの巨大なもので全国でも最大規模とされています。

大念寺古墳の石室は文政9（1826）年に寺の墓地の工事に際して開口し、多くの遺物が出土したとされています。しかし出土した遺物はほとんどが行方不知となり、わずかに円筒埴輪の破片などが残るのみとなっています。

「大念寺古墳発掘遺物図」は天保4（1833）年に、出土遺物の保管先で模写されたもので、出土品の小さな破片まで記録されています。大刀、槍等の武器や馬鐸ばたく、鈴、装身具などが描かれ、失われた副葬品の構成を知るための貴重な情報を伝えています。

中でも図の後半に描かれた金属片は、山陰地方で出土例のない金銅製クツの破片と考えられ、注目に

れます。金銅製クツは藤ノ木古墳（奈良県）や江田船山古墳（熊本県）で出土した例が有名な最高ランクの副葬品であり、大念寺古墳の被葬者の地位の高さがうかがわれます。

いっぽう「今市大念寺洞中細見之図」は、文政9（1826）年に開口した大念寺古墳の石室の詳細図で、石室の発見後まもなく作成されたと伝えられています。出土遺物の一覧が列記されているほか、現在は失われている前室の石棺も詳細に記されており、開口時の様子を知るための重要な資料です。

今回紹介した2点の図は、そのほとんどが失われてしまった大念寺古墳の出土資料や開口時の状況に関する情報を伝えており、同古墳の実態を知る上で重要な資料です。大念寺古墳は松江市の山代二子塚古墳（全長94m）とほぼ同時期（6世紀後半）に造られたと考えられています。これらの図は、東西に拮抗する勢力が存在した古墳時代後期の出雲の状況を考えるうえで貴重なものと言えます。



大念寺古墳発掘遺物図（画像提供：出雲弥生の森博物館）

## ◎島根県古代文化センターの調査研究・情報発信事業について

# 『出雲国風土記』 校訂・注釈本作成の現場から

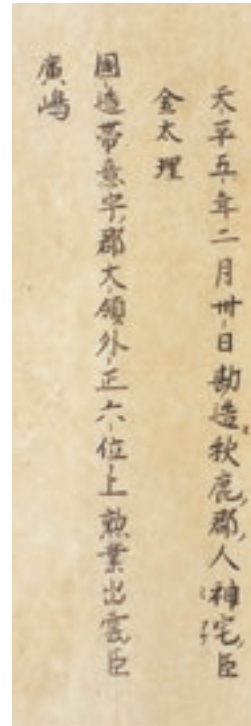
島根県古代文化センターの実施している風土記調査研究事業では、現在、『出雲国風土記』の解説書（仮に校訂・注釈本としておきます）を鋭意作成中です。

『出雲国風土記』の校訂・注釈本は、それを手に取ることで、誰もが最新の研究に基づいて内容を理解し、登場地を訪ねることができるような本をめざしています。

校訂・注釈本の作成の最初の作業は、『出雲国風土記』を読んで、書かれている文字を確定することです（校訂作業）。『出雲国風土記』は写本で伝えられているので、写している過程で元の文字の形が崩れたり、写し間違いで意味のわからなくなっている部分があるので、それを読み解いていきます。次に、こうして確定した本文に説明を付ける作業があります（注釈作業）。『出雲国風土記』は奈良時代の文書であるので、そのまま読むのは難しく、難解な部分や解釈の分かれる部分について、注釈を付けていきます。また、登場する地名についても、わかりやすく示すために現代の地図に所在地を記した出雲国風土記地図を作成します。

ここで、注釈作業について一例を挙げてみたいと思います。『出雲国風土記』は奈良時代に<sup>あきか</sup>出雲・石見・隠岐のような旧国毎に編纂された風土記の一つです。風土記はふつう都から派遣された国司が編集しました。しかし『出雲国風土記』は、編集者について「<sup>あきか</sup>勘造 秋鹿郡人神宅臣金太理」「<sup>くにのみやつこ</sup>国造…出雲<sup>おみひろしま</sup>臣廣嶋」と記しており（写真）、2人ともに出雲国の人物です。このため、『出雲国風土記』は他の風土記と異なり地域独自の伝承を多く採用している、あるいは出雲では国造出雲臣の勢力が強く、国司に代わって編纂者となったと評価されてきました。

ここで、「勘造」という語が他の国の風土記に見えるかどうか調べてみると、一例だけ丹後国風土記（これ自体は現存しません）を、この地域の国造氏である<sup>あまべのあたし</sup>海部直千嶋が「勘造」したと記す史料があります（「海部氏勘注系図」、以下「勘注系図」）。さら



『出雲国風土記』古代文化センター本の勘造者記載

にこの「勘注系図」に引用されている丹後国風土記の文章には、「古老が伝えて言うには、<sup>おおなむちのかみ</sup>大穴持神と<sup>すくなひこなのかみ</sup>少彦名神が大小の島を引いて、大嶋を作った」という、『出雲国風土記』の国引き神話によく似た伝承も登場します。これらの記述を信頼すれば、出雲だけでなく丹後でも国造氏が風土記を「勘造」したことになるでしょう。

しかし「勘注系図」の成立は江戸時代とされており、そこにみえる「勘造」や『出雲国風土記』に類似する丹後国風土記の記述は、奈良時代のものではなく、後に『出雲国風土記』を参考として付け加えられたことも充分考えられます。「勘注系図」の引用する丹後国風土記を信頼できるかどうかについては、研究者間でも見解が分かれており結論は簡単に出不せないので、『出雲国風土記』に<sup>こまごま</sup>細々とした注釈を施すことは、『出雲国風土記』や古代出雲の特質を解明し、それを評価することにつながる、重要な作業であるということが出来ます。

■島根県古代文化センター首席研究員 平石充



【開館記念】先着プレゼント  
歴博オリジナルラベル『生姜糖』



各日先着  
100名様

実施期間 3月10日(水)～3月14日(日)

対象 期間中、チケット購入された方またはパスポートを使ってご観覧いただいた方

3月10日は歴博の開館記念日です！

これを記念して3月10日～3月14日の間にチケット購入された方またはパスポートを使ってご観覧いただいた方のなかから各日先着100名様にオリジナルラベルの生姜糖をプレゼントします！昔ながらの懐かしい味の生姜糖です。ぜひこの機会にご来館ください！

※写真はイメージです。

奈良県 出雲  
観光 in 出雲  
キャンペーン

NARA sightseeing campaign in IZUMO

特別展「しきしまの大和へ」の開催にあわせ、  
「2021年聖徳太子没後1400年」と「奈良大和四寺巡礼」をテーマに、  
特別講座、パネル展示等を実施します！  
〈主催／奈良県〉



～いにしえからの信仰に思いを馳せる～ 奈良大和四寺巡礼

3月 27日(土)・28日(日) 特別講座  
～奈良大和四寺巡礼・聖徳太子～

第一部 「奈良大和四寺巡礼への誘い」  
講師／The Nara-Yamato Interpreter Team代表 福田彩乃氏

第二部 「聖徳太子に会う奈良」  
講師／NPO法人文化創造アルカ理事長・奈良市観光大使 倉橋みどり氏

●時間／各日13:30～15:00  
※27日(土)、28日(日)は同じ内容です

●会場／古代出雲歴史博物館 講義室

●特別講座にご参加される際はマスクの着用をお願いします。

各日 60名 参加無料

特別講座に参加をご希望の方は、下記の方法でお申し込みください。

- お申し込み方法  
電話、FAX、ホームページのイベント参加フォームのいずれかで事前にお申し込みください。
- お申し込み先  
〒699-0701 鳥根県出雲市大社町杵築東99-4 古代出雲歴史博物館  
TEL.0853-53-8600 FAX.0853-53-5350 <https://www.izm.ed.jp>
- 個人情報の取扱について  
この申込みによって収集した個人情報は、鳥根県の規定に従って取扱い、表記の特別講座開催の目的にのみ利用するほかは、法令に定めがある場合を除いて第三者に提供することはありません。

3月 19日(金)・5月 17日(月) 「聖徳太子」  
「奈良大和四寺巡礼」パネル展

●場所／古代出雲歴史博物館  
庭園側出入口付近及び特別展示室前スペース

3月 20日(祝土)・21日(日) “せんとくん”と  
“しまねっこ”がお出迎え

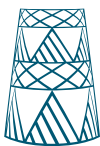
“せんとくん”と“しまねっこ”が、古代出雲歴史博物館にご来館  
いただいた方をお出迎えます。

●予定時間／①10:30～10:50 ②13:00～13:20 ③15:00～15:20

併せて ミュージアムショップでは、  
「奈良グッズコーナー」が設置・販売されます！

※新型コロナウイルス感染症の状況により、日程や内容等が変更になる場合があります。  
最新の情報は古代出雲歴史博物館ホームページをご覧ください。

どこ行く? りまはく!



鳥根県立古代出雲歴史博物館  
Shimane Museum of Ancient Izumo

〒699-0701 鳥根県出雲市大社町杵築東99-4  
TEL.0853-53-8600(代) FAX.0853-53-5350  
[URL] <https://www.izm.ed.jp> [E-mail] [contact@izm.ed.jp](mailto:contact@izm.ed.jp)  
開館時間／9:00～18:00(11月～2月は9:00～17:00)  
休館日／第3火曜日(変更の場合有り)



マスコットキャラクター  
雲太くん



発行／令和3年2月



マスコットキャラクター  
出雲ちゃん